



# 学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

[www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai1/](http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai1/)

令和2年度



令和3年1月29日発行

## 当たり前前の生活の有り難さ

副校長 宮崎 恵子

2月といえば節分。季節の節目を表すこの日は、豆をまいたり、恵方巻を食べたりするご家庭が多いのではないのでしょうか。

さて、今年の節分は、2月2日です。1985年以来ずっと「2月3日の節分」が続いていましたが、今年は1897年（明治30年）以来124年ぶりに2月2日となります。これは「地球が太陽の周りを回る周期が1年ぴったりではないため、微妙なずれが積み重なった結果」だそうです。つまり、「節分は2月3日」と決まっていたわけではなく、その年々で微妙に日にちが変わる可能性があり、実際に1956年から1984年までは4年に1度のペースで節分が2月4日でした。それなのに、30年以上「2月3日」だったことで、それが世の中においても当たり前になってしまったようです。さらに、今世紀後半の2057年からは「2月2日」になる年が増えるそうで、そうすると今度は「節分は2月2日」が当たり前前の時代になるのかもしれませんが。

人はその状態が長く続くと、それが「当たり前」と感じるようになり、その状態が変わるとき、それが「当たり前」ではなかったことに気づかされます。まさにこの一年間がそうでした。コロナウイルス感染症拡大防止の対策から、今まで当たり前だったことができなくなっています。「行きたいところに行けない」「会いたい人に会えない」そして学校でも、歌や合奏、体育や話し合いなど「やりたい学習や活動が思うようにできない」・・・そんな当たり前前にできていたことができなくなった日々は、ストレスも多くなり、不安や不満が多くなりがちです。

でも、こんな今だからこそ、「当たり前」だと思い込んでいた生活の有り難さに感謝する気持ちを持ちたいものです。「仲間と集まれる有り難さ」「田舎に帰れる有り難さ」「旅行が楽しめる有り難さ」そして「友達と楽しく給食を食べること」や「みんなと大きな声で歌うこと」「仲間と思い切り語り合うこと」の有り難さ・・・

そしてもう一つ・・・具合が悪いときは病院に行けば診察してもらえる有り難さ。医療従事者の皆様には、本当に感謝申し上げます。

当たり前だと思っていたことは当たり前とは限らない。節分の日にもその年によって変わるように、生活様式も状況と共に変化するものなのだと改めて教えられたこの一年。でもこの機会をマイナスにだけ捉えるのではなく、これまでの生活を見直す機会にしていってほしいと思います。

と同時に2月2日は、ぜひご家庭でお子さんと一緒に、コロナウイルスの退散を願いながら、日本に古くから伝わる節分の行事を楽しんでほしいと願っております。

くれぐれも、一日遅れにならないようご注意ください！！

